

特集 (2~4面)

多様な人材を受け止め、発展する組織づくりをめざして
— 「組織性」を育む研修の意義とこれからの展開 —



▶ 今月の表紙 気の置けない仲間たちと30年

神奈川県精神保健ボランティア連絡協議会は、発足30周年を迎えたことを区切りに、解散することを決めた。

会長の根岸昭臣さん(写真中央)は、「ボランティアグループを越えたつながりで多くの刺激を受けてきた。今後も横のつながりは続けていきたい」と話す。

【詳しくは12面へ】 〈撮影・菊地信夫〉

多様な人材を受け止め、 発展する組織づくりをめざして

～「組織性」を育む研修の意義とこれからの展開～

福祉・介護人材確保のため、多様な経験や背景をもつ人材の参入が進められる中、現場にはより丁寧で個性の高い職員育成が求められています。昨年6月成立の働き方改革関連法では、正規職員と非正規職員の格差是正、同一業務を担う職員への均等な教育機会の提供など、あらためて従来の育成体制を見直す必要性も出てきました。今回は、福祉研修センターの取り組みから「組織性を高める研修」にスポットをあて、人材育成・定着につなげるためのOFF-JT(職場外研修)の意義や今後の展開について提案します。

福祉職場に必要な「組織性」とは

福祉職場は、分野を問わず、一人ひとりの利用者に対してチームで支援にあたることが求められています。そこでは職員個々の専門性向上もさることながら、組織の一員として職場の理念・目標のもと、相互にコミュニケーションをとりあい、一丸となってサービス向上のため行動できる人材を育成していくこと、そうした「組織人」によって構成される職場をつくっていくことが重要となります。

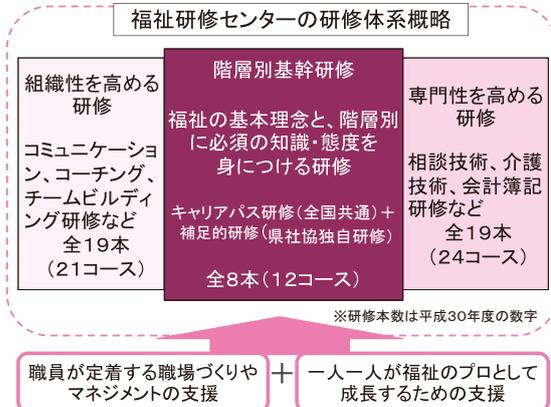
人材確保が困難な中で、職員の離職防止と定着は重要な課題となっています。離職理由の中で多いと言われているのは、「組織の理念が合わなかった」「職場の人間関係」などです。人員不足や時間的余裕の無さから、コミュニケーションの不足や職場内の育成の不足等につながりがちな現状がありますが、その状況を放置しておけば、職員の離職を防止することはできず、悪循環につながりかねません。今の困難を乗り越えていくためにも、個々の職員が、チームワークにより組織を担う人材へと成長していくことと、その人材が生き生きと働き続けられる職場づくりが重要となっています。

「組織性を高める研修」の重要性

福祉の仕事は人の命と生活を支え

る仕事であり、携わる職員すべてがその基本の考え方を身につけ、各階層に応じて振り返る機会を持つことが大切です。福祉研修センターでは、このような基本となる研修を階層別の基幹研修として研修体系の中軸に置いています。

そして、この基幹研修の構成要素をさらに個別に深める形で、「組織性を高める研修」と「専門性を高める研修」に分けて、年間約50本の研修



- キャリアパス研修(階層別基幹研修)の基本構成要素
- ① キャリアデザインとセルフマネジメント
 - ② 福祉サービスの基本理念と倫理
 - ③ メンバーシップ・リーダーシップ
 - ④ 能力開発
 - ⑤ 業務課題の解決と実践研究
 - ⑥ リスクマネジメント
 - ⑦ チームアプローチと多職種連携・地域協働
 - ⑧ 組織運営管理

「組織性を高める研修」(マネジメント系研修)の種類

主な目的、要素	対象階層	研修種類
一人の組織人として必要な知識・態度・スキルを学ぶ	新人を中心に全階層	接遇・マナー研修、コミュニケーション研修、アンガーマネジメント研修など全7本
職員を指導・育成するために必要な知識・態度・スキルを学ぶ	中堅・リーダー層	チームビルディング研修、コーチング研修、スーパーバイザー研修など全7本
組織全体の運営のために必要な知識・スキルを学ぶ	管理者層	組織運営管理研修、キャリアパス構築研修、人材育成体制研修など全5本

を実施しています。「組織性を高める研修」、いわゆる組織マネジメントに関するものは全部で19本あり、個々の研修は、例えば、部下や後輩の育成を目的としているスーパービジョン研修の学びから、さらに部下・後輩への声かけなどに難しさを感じている場合は、コーチング研修などでその部分を深めるなど、相互の関連性を持っています。組織人の育成と、質の高いサービスを維持できる職場づくりに向けては、①構成員である個々の職員が組織の一員としての行動や力を身につけていくこと、②組織の中で先輩が後輩を育てていくこと、③組織の理

各階層職員自身の研修課題と管理職が受講させたい研修項目
H30年度キャリアパス研修受講者アンケートから

順位	初任者自身の研修課題	管理職が受講させたい初任者研修項目
1	利用者理解	利用者理解
2	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント
3	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術
4	チームケア実践	メンバーシップの実践
5	他組織・分野との連携	社会福祉の価値倫理

順位	中堅職員自身の研修課題	管理職が受講させたい中堅職員研修項目
1	メンバー・リーダーシップの実践	新人指導(エルダー・プリセプター)
2	コミュニケーション技術	コーチング
3	モチベーションマネジメント	モチベーションマネジメント
4	利用者理解	メンバー・リーダーシップの実践
5	職場の課題形成と問題解決	コミュニケーション技術

順位	チームリーダー自身の研修課題	管理職が受講させたいチームリーダー研修項目
1	人材育成体制	チームビルディング
2	コミュニケーション技術	職場の課題形成と問題解決
3	ストレスマネジメント	チームケア実践
4	メンバー・リーダーシップの実践	人材育成体制
5	モチベーションマネジメント	コーチング

階層ごとの研修ニーズの傾向

新人層	本人・管理職とも、利用者理解、ストレスマネジメントやコミュニケーションなど「対人援助の基本」と「人間関係の構築」に関するスキル習得のニーズが高い。
中堅層	本人のニーズに比べ、管理職は新人指導、コーチングなど、「指導者層としてのスキル」習得のニーズが高い。モチベーションに関しては両者共通にニーズとしてあげている。
リーダー層	本人のニーズに比べ、管理職は「チームワークの上でのリーダーシップ発揮」につながるスキル習得の研修ニーズが高い。

念に向けて組織全体を統制していくこと、という3つの要素が必須と考えられます。この要素に沿って、新人層、中堅・リーダー層、管理者層と、段階を追って受講する流れを、研修内容組み立ての中心に置いています。

多様な人材が参入してきている現場では、組織が一体となることの困難さはこれまで以上に増しているものと思われれます。そうした中で、「組織性を高める研修」は、問題解決に向けた鍵になります。

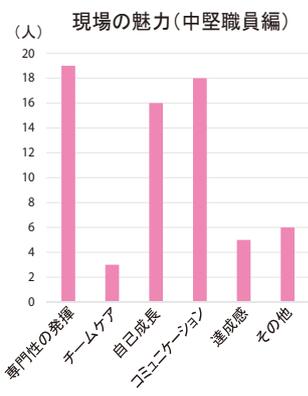
研修参加者から見る研修ニーズ

基幹研修であるキャリアパス研修

では、毎年、各職場における職員育成上の課題や、主な研修ニーズについて、受講者等へのアンケートを行っています。本年度のアンケートからは左図のような傾向が見えてきます。中堅・リーダーなど階層が上になるほど、組織からの指導者層、リーダー層としての期待は高まっていますが、一方で当事者側はどの階層になっても、コミュニケーション、モチベーションといったテーマが研修ニーズとしてあることも着目できます。

また、初任者コース受講者は、研修への参加を通し「将来になりたい職員像」として、次のようなことをあ

このような声こそ、福祉の仕事の魅力であり、人材確保にあたって、強くアピールしていきたいところで、日常の大変さはあっても、個々の職員がこうした原点に立ち返る場として、OFF-JTの場は重要と言えます。



などでした。

- ・現状に満足せず、常によりよい支援を考える職員
 - ・利用者に信頼される職員
 - ・常に学びの姿勢を忘れずに利用者に向き合いたい
 - ・利用者主体の支援を実現できる職員
- 中堅コース受講者の「福祉の現場の魅力」にあげられていたのは、
- ・一つの問題に皆で向き合い、解決につなげるところ
 - ・時間がかかることもあるがやりがいと達成感がある
 - ・人とふれあい、人と成長ができる
 - ・「共生」を実感できる
 - ・自分自身の財産になる

福祉研修センターの研修に見る「仲間」の大切さ

本会が実施する研修では、基本的な講義のほかにワークを多く取り入れられています。2日以上研修では「宿題」の持ち寄りによるワークも多くあり、こうしたことにより、研修がより実践に近くなり、現場で生かせるものになっています。

職場の課題解決をテーマとする研修では、昨年度の受講者の7割が、研修時に掲げた目標に向けて、今も継続して取り組んでいることが分かりました。研修は単に個々がスキルアップする学びの場ではなく、受講者が種となって、それぞれの現場での実践を広げていくものだと考えています。

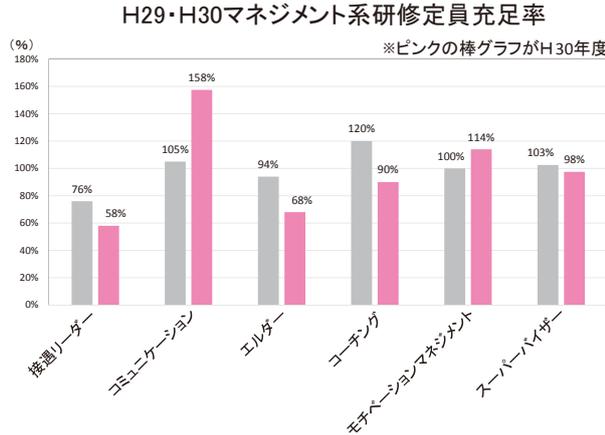
また、何度も受講者同士が顔を付き合わせて行うワークは、それぞれの現場の状況も踏まえた課題共有や情報交換になり、講師からの学びだけでなく、受講者同士の学び合いや仲間づくりにつながっています。

特に新人育成や職場内の課題解決などを任せられた中堅・リーダー層の職員は、職場内研修でこれらのテーマを学ぶことは難しく、不安や悩みを抱えがちです。負担が大きくなりがちな中堅・リーダー層を支えるためにも、OFF-JTの場を通して仲間同士のつながりをつくることは、

明日に向けての原動力になるのではないのでしょうか。

より身近なエリアでの OFF-JTの場の必要性

本年度の「組織性を高める研修」の定員充足率を昨年度と比較すると、「接遇リーダー」「エルダー」「コーチング」の各研修の参加率が減っていることが分かります。共通しているのは、これらが中堅・リーダー層を対象とした研修であることです。



参加率減少の要因の1つとして、中堅・リーダー層への負担等が関連していることも考えられます。これまでのアンケート等でも、「人員体制不足のために研修に職員を派遣できない」という声は多くありました。

このような状況を踏まえ、本会では研修事業の地域展開として、福祉研修センターの研修体系をベースに、その中からいくつかの研修について、市町村域との協働による、身近なエリアでの実施方を模索してまいります。それぞれの地域で研修の場をもつことにより、図のようなメリットがあると考えています。

研修事業の地域展開

福祉研修センターの研修

【役割・特徴】

- ・基本理念の理解を通して、より深化した学びを得る場
- ・最新情報をキャッチする場
- ・丁寧なワーク等を通して、具体的な実践につなげるための学習の場
- ・分野を超えた専門職同士のネットワークの場

講師情報提供、研修プログラムの提供

市町村域、ブロック圏域での研修

【メリット】

- ・研修の往復時間を短縮できる
- ・短時間で意味や目的、基本的な概要は学ぶことができる
- ・より深い学びへと向かわせるきっかけづくりになる
- ・身近な地域でのネットワークづくり、仲間づくりにつながる
- ・地域内の各施設・事業所で職員が相互研鑽することにより、地域全体の向上につながる

県域で実施する研修について、さらに最新動向等を踏まえた内容の充実を図りつつ、各職場が職員を研修に出しやすい環境づくりについて取り組んでいく予定です。

これからの職員育成上の課題と 福祉研修センター事業の展開

介護分野でも保育・児童分野でもキャリアパスの構築は進んできました。これからは、働き方改革関連法等の動き、多様化の進む新人層に向けた育成のあり方なども視野に、いかにそのキャリアパスの仕組みを実態に沿って動かししていくかが重要です。来年度の「組織性を高める研修」でも、現場の状況・課題を踏まえ、研修内容の充実を図ってまいります。

これまでも各施設・事業所等に講師情報の提供や研修内容の相談等、職場内研修への支援を実施してきましたが、今後は、研修の地域展開と併せて、職場内研修と本会の研修との効果的な展開策なども描きながら、各職場の職員育成支援のあり方を検討します。その中で、県内施設・事業所の取り組みの工夫を収集し、職場内研修支援や研修の場などを通して広く伝えていくことなども、県域の福祉従事者研修の専門機関である福祉研修センターの役割と考えています。

来年度の研修計画は、研修体系をさらに整理し、各研修の関係性、モデル的な受講例なども含め、目的や効果が分かりやすいように情報発信の工夫をしていきます。各法人、施設・事業所の職員育成計画との関係性を踏まえ、効果的な職員育成のために本会研修をご活用ください。

(福祉研修センター)

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により皆様の安心と安全を提供致します。防犯カメラや新型【AED】も取扱っております。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 **岡本 誠 一 郎**

本 社 〒221-0045 横浜市中区神奈川2-8-8 第一川島ビル
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1528

一般社団法人

神奈川県福祉研究会

福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

理 事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)

同 辻村 祥造(☎045-311-5162)

同 西迫 一郎(☎046-221-1328)

同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)

代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかん印刷
KKI 株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/



私たちは地域の「子育て応援団」です

～児童委員、主任児童委員活動から～



子どもたちの居場所を作りたい・「ふりーサロン5（ファイブ）」の取り組み

横浜市西区第五地区は、横浜駅東口・西口の巨大商業地域を抱える地域ですが、この地区には公園が1つしかありません。

平成13年から、更生保護女性連盟の活動として「子育て支援活動」が民生委員・児童委員とのタイアップ事業としてスタートしました。1歳くらいからの保育園入所が増え、母親の勤務形態が常勤に変化している中、乳幼児の子育て支援は充実しましたが、小中学生の子どもたちへの支援が抜け落ちていることに気が付きました。学齢期に地域環境が整っていないのです。子どもたちが外遊びをする姿はほとんど見かけず、家でゲームをしている様子でした。

他地区では子ども食堂の開設が始まった時期でしたが、私たちはただ食事を提供するだけでなく、外遊びのできる場所を探しました。日頃から「親子ふれあい会」を開催している町内会館に隣接する広場が利用できれば、子どもたちが遊べる空間ができる、との思いから、サロン開設へと動き出しました。小中学校から家庭へ案内のチラシも配布してもらいました。これが「ふりーサロン5（ファイブ）」の始まりです。

思いは的中しました。広場で生き生きと遊ぶ子どもたちは、みんな輝いています。おにぎりや唐揚げなどを楽しそうに食べる子どもたち

や、お母さん方が交流している姿に、地域での支え合いの大切さを痛感しました。外遊びを見守る男性の担い手は、地区社協のボランティア部会の協力を得ています。専門学校の学生さんたちの協力も助かります。子どもたちの親からもお手伝いして下さる方が出てきました。人と人とのつながりは、地域の大きな宝物です。



陸橋下の広場



テーブルを囲んで交流

サロンを開催して3年が経ちました。月1回の開催を毎週開催にするのが夢ですが、費用や担い手の確保が課題です。

今の活動をしっかり継続して次の世代へつないでいけたら、子どもたちの幸せにつながると信じてやっていこう、と話し合っています。担い手もサロンに来てくれている皆さんも、楽しく集い合えたら、最高の幸せです。



横浜市西区第五地区
民生委員児童委員協議会
会長 武田 容子

— 社会福祉施設の設計監理 —

株式会社 **安江設計研究所**

東京都港区高輪 2-19-17-808
Tel 03 (3449) 1771(代) / Fax 03 (3449) 1772
E-Mail yasue@yasue-sekkei.co.jp
URL <http://www.yasue-sekkei.co.jp/>

新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・
アスベスト調査等お気軽にご相談ください

● 印刷の事ならおまかせください ●

● 印刷 ● フレット ● 冊子 ● 5冊 ● その他 ● カタログ ● ポスター ●

お気軽にご相談ください!

株式会社 **あんざい**

横浜市港南区下永谷 3-24-29
TEL 045-822-8497
FAX 045-824-1303
mail: anzai@p-anzai.jp

「地域」と「人」とのつながりが子どもたちにもたらすものは？
セミナー「想いに込める学習支援のつくり方」で共有したこと

(N)よこはま地域福祉研究センターでは「子どもの地域生活支援プロジェクト」に取り組んでいます。プロジェクトでは「子どもの育ちや自立」をテーマに、今日の社会における課題や地域福祉の役割に関心を持ち、自治体などさまざまな機関との協働事業や自主的な調査活動・セミナーの企画・実施などを通して課題をつかみ、解決のための実践につながる取り組みを続けていきます。

近年、地域には市民が主体となって運営する子ども食堂や学習支援など、新たな子どもへの支援活動が次々に誕生しています。活動者である市民は、活動を通して身近に生活しながらも気づいていなかった地域の子どもや若者の生活課題を知り、子どもたちの生活環境である家庭や地域にもさまざまな課題が存在することに気づかれています。ではないかと思えます。

今回のセミナーは、地域で広がりを見せている「学習支援」について、活動に係る人や組織が集い、共に学び、より良い活動を参加型のセ

ミナーの中で模索することを目的に企画しました。具体的には、テーマを「学習支援活動の目的と対象」「学習支援の具体的実践」「学習支援の支援者のありかた」に設定しました。講義とワークショップで進め、研修は全3回。講師の選定には、横浜市鶴見区で学習支援を行っている(N)サードプレイス代表理事の須田洋平さんが協力してくださいました。



セミナーチラシ

第1回は、東京電機大学助教の山本宏樹さんから現代の子どもについて多面的に講義をいただきました。中でも、子どもたちの育ちの過程における人との信頼関係が子どもの自尊感情や自己肯定感を育み、自分を成長させようとする力につながることを学び、その過程に学習支援の場がどう役割を果たすのか

対話が広がりました。

第2回では(N)あつとすくーる理事長の渡剛さんが講演。保護者との関係も大切にしていることや、学習支援のミッションとして高校進学を支えることにあるものの、実は進学の高校時代にも子どもに寄り添い、自立に向けた励ましが必要であることを事例も交えてお話しいただきました。中学生と高校生の違いや、自立に向けて高校時代にさまざまな学びや経験を人との関係の中で持つことの重要性は、受講者も実感できる内容で、社会資源的にも未整備なことも多いと思われる中、今後も検討の必要性を考えさせられました。



講演の様子(中央が荒井さん)

第3回に登壇した(N)PIEC E S副代表の荒井佑介さんの講義では、阻まれている若者の自立のステップやそのプロセスで行う個別支援・集団支援・伴走支援などさまざまな支援方法を学びました。若者との信頼関係を築き、関係が

途切れない「つなぎの支援」ができる支援者の話には受講者の多くが関心を寄せ、たくさんの質問が出るなど有意義な時間となりました。

セミナーの参加者は10代から70代まで、幅広い年齢が毎回参加。立場も学生、元教員、スクールソーシャルワーカー、民生委員児童委員、行政職員、社協職員、地域包括支援センター職員、児童福祉施設職員、ボランティア等さまざまでした。



ワークショップに取り組む受講者

学習支援という個性が高い支援活動の中で、子どもたちと地域の大人がつながり、信頼関係を育むことは、子どもの心に安心と豊かさを与え、未来に勇気と希望を与えるのだということを本セミナーで改めて実感しました。

次年度も第2弾のセミナー開催が決まっています。ぜひ、またたくさんの方の参加があることを楽しみにしています。

■ <http://yresearch-center.jp>
(よこはま地域福祉研究センター)

福祉のうごき

平成30年12月26日～平成31年1月25日

Movement of welfare

●2017年度調査で、障害者虐待過去最多

2017年度、全国自治体などが確認した障害者への虐待が過去最多の2,618件と厚生労働省が26日発表した。被害者は、知的障害者が71%を占める。福祉施設の職員らによるものは464件で最多を更新。

●幼児教育・保育の無償化決まる

政府は、幼児教育・保育の無償化に向けた具体的な方針を関係閣僚会合で決定した。3～5歳児は原則全世帯、0～2歳児は住民税非課税の低所得世帯対象に10月から開始する。高等教育の無償化は、授業料の減免と返済不要の給付型奨学金を柱に2020年4月から実施する。

●寿町の簡宿で火災10人死傷

4日朝、横浜市中区寿町の簡易宿泊所で10人が死傷する火災が発生。現場はバリアフリー型の宿泊施設で、高齢者や障害者から住みやすいとの定評があった。これを受け、横浜市は市内全ての簡宿に立ち入り検査を実施、設備を確認する。

●外国人労働相談、多言語対応人材不足

全国の労働局などで、外国人労働者の労働時間や賃金問題に外国語で対応する相談コーナーの設置が26都道府県の34カ所止まりであることが6日、厚生労働省のまとめで分かった。一言語しか対応できない所が多く、多言語での対応を担う人材不足が壁となっている。

●育児延長等影響か 県内待機児童618人減少

昨年10月1日現在の県内の保育所待機児童数は3,793人で、2017年10月と比較して618人減少したことが18日、県の調査で分かった。2017年の育児・介護休業法の改正や企業主導型保育事業が待機児童数の減少につながったとみられる。

県内8信用金庫で後見制度支援預金の取り扱いを開始

今年の1月7日から、県内の8信用金庫が「後見制度支援預金」(以下、支援預金)の取り扱いを開始しています。

支援預金は、成年後見制度を利用する方の財産を安全に管理するための預金口座です。本人の日常生活に必要な分を除いた通常使用しない金銭を、家庭裁判所の「指示書」に基づき支援預金口座で管理するため、財産を安全に保護することができます。

預入期間や最低預入金額に制限はなく、口座管理のための手数料もかかりません。同じような仕組みに「後見制度

支援信託」がありますが、こちらは専門職後見人が支援信託の利用が適しているかどうかの判断や、信託銀行との契約を家庭裁判所の指示により行い、親族後見人に引き継ぐ方法がとられます。

一方、支援預金では利用開始時に専門職後見人の選任が必須ではなく、親族後見人だけで手続きが進められることもあるという違いがあります。

本人の財産が適切に守られる金融機関の取り組みが広がることで、成年後見制度の利用が促進されることが期待されます。

具体的な内容等、詳細は各金庫へお問合せください

信金名	電話番号
横浜信用金庫	045-533-3931 (事務部)
かながわ信用金庫	046-821-1709 (業務部)
湘南信用金庫	046-825-1463 (営業統括本部)
川崎信用金庫	044-220-2202 (業務部)
平塚信用金庫	0463-30-3555 (事務部)
さがみ信用金庫	0465-24-6125 (営業統括部)
中栄信用金庫	0463-81-1852 (事務部)
中南信用金庫	0120-61-2615 (業務部)

(企画調整・情報提供担当)

やさしさのおくりもの



「サンタさん、ありがとう!」子どもたちの明るい笑顔に包まれた

クリスマスを楽しんでほしい 神奈川トヨタ自動車(株)

「メリ〜クリスマス〜」大きな声で登場したサンタクロースに、「わ〜サンタさんだー」と、子どもたちは大はしゃぎ。毎年クリスマスには、神奈川トヨタ自動車(株)より児童福祉施設等の子どもたちへ、クリスマスケーキを寄贈いただいています。昭和62年より続くこの取り組みは今年で32回目。毎年約500個のケーキを子どもたちのもとへ届けています。

ケーキの希望をいただいた中の1施設には、サンタさんがケーキを渡しに来てくれました。ケーキを受け取る子どもたちの笑顔が楽しみで、支援を続けていきます」と同社渉外広報部長の黒澤宏康さんは語ります。

同社では、このほかに環境・スポーツ・芸術など、さまざまな社会貢献活動で地域に協力いただいています。これからも、サンタクロースが笑顔を届けてくれることを、楽しみにしています。

(地域福祉推進担当)

私のおすすめ

◎このコーナーでは、子育てや障害、認知症・介護当事者の目線から、普段の暮らしに役立つ「おすすめ」なものを紹介します。

「スペシャルオリンピックス日本・神奈川」 ～スポーツを通じて自立と社会参加を～

スペシャルオリンピックス(SO)とは、知的障害のある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織です。

❖スペシャルオリンピックス

スペシャルオリンピックスでは、スポーツ活動に参加する知的障害のある人たちをアスリートと呼んでいます。今回は12のスポーツプログラム(陸上競技、バスケットボール、テニス、卓球、水泳競技、ボウリング、サッカー、馬術、アルペンスキー、スピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー)の中から水泳プログラムについて紹介させていただきます。

参加するアスリート一人ひとりの競技能力に合わせてプログラムを提供し、まずは着替え、次はシャワーを浴びること、そしてプールに入れるようになること。水の中を歩けるようになること。ビート板を使って泳ぐなど少しずつプログラムを進めていきます。

コミュニケーションをとることが難しい場合は、練習の順番が判るように手順書を作り、次に何をやるか、いつ終わるか視覚的に判るようにしています。自由形、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ等全種目泳げるアスリートもいます。

水遊び大好きが高じて水泳を始めましたが、学齢期を過ぎてても楽しく続けられるスペシャルオリンピックスが何よりの余暇活動です。

また、家族以外のボランティアのコーチたちと一緒にスポーツができることも大きな成果です。



ボランティアのコーチと一緒に、楽しくそして真剣に練習して競技会を目指す

今月は

⇒ **神奈川県自閉症児・者親の会連合会**

がお伝えします!

1968年4月設立。県内11地区(横浜市・川崎市を除く)の自閉症児・者親の会による連合会です。行政施策の研究・提言、当事者・家族のためのミーティング運営、療育者等に向けた勉強・セミナー運営等、自閉症児・者と家族の支援や、自閉症スペクトラムの理解を進めるための活動を各市町村及び県に向けて展開しています。

〈連絡先〉 [URL http://kas-yamabiko.jp.org/](http://kas-yamabiko.jp.org/)
Mail info-kas@kas-yamabiko.jp.org

❖年に1度の競技会

競技会では可能な限り同程度の競技能力を持ったアスリート同士が競技できるようにグループ分けを行います。例えば水中歩行も競技の1つとなります。

表彰台の上では、全てのアスリートにメダルやリボンがかけられ、順位だけではなく競技場に立ち最後まで競技をやり終えた事に対して、一人ひとりに変わらぬ拍手が贈られます。自分の現在の能力を十分に発揮し、一番に輝く機会となっています。

インフォメーション

〈ボランティア募集〉

スペシャルオリンピックスは非営利活動で、運営は「ボランティアと善意の寄付」によって行われています。どの競技でもボランティアを募集しております。アスリートと一緒に楽しく身体を動かしませんか。

問合せはSON事務局へ。

■(N)スペシャルオリンピックス日本(SON)・神奈川事務局
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7 横浜YMC A903
Mail jimu@son-kanagawa.com
☎045-650-5216 (平日午前10時30分～午後5時)
FAX 045-650-5217

Special
Olympics
Nippon
Kanagawa



知的障害のある人にスポーツを

(N)横浜子どもホスピスプロジェクト

代表理事 田川 尚登



◎このコーナーでは県内各地の福祉関連の当事者・職能団体等の方々から日ごろの取り組みをご寄稿いただきます。

(N)スマイルオブキッズを設立後、2014年から子どもホスピス設立準備活動を行い、2017年4月、新法人として「(N)横浜子どもホスピスプロジェクト」を立ち上げ、子どもホスピスの開設準備活動を行っている。

(連絡先) 〒231-0003 横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター164

☎050-5239-9672 FAX 045-550-3459

✉contact@childrenshospice.yokohama URL http://childrenshospice.yokohama/

横浜子どもホスピスプロジェクトとは？

我が国には治療方法が現存しない小児がんや遺伝子系、神経系の疾患などにより短命で人生を終えてしまう子どもが約2万人います。高度医療が進む中、こうした子どもや家族を支える仕組みがまだまだ追いついていない現状は、意外と知られていないのではないのでしょうか。

平成9年に次女が悪性脳腫瘍と診断され、余命告知から旅立ちまでの貴重な5カ月間は、医療への感謝と同時にさまざまな不自由を感じた日々でもありました。小児医療の現場を改善することに娘の生まれた意味を感じ平成15年に(N)スマイルオブキッズを設立しました。病院への遊具の寄贈から始まり、平成20年に募金によるご支援を元に、病児に付き添う家族の宿泊滞在施設「リラのいえ」を県立子ども医療センター近くに開設しました。

平成25年、我が国に子どもホスピスの開設を夢に見ていた藤沢市の石川好枝様から遺贈を受け、建築費用の3億円をめざした募金活動が始まりました。平成29年7月からは(N)横浜子どもホスピスプロジェクトとして活動

を開始し、現在までに3億円近くが集まっています。希望としている施設建築見積は、3億6千万円。それに運営費がかかりますので、道のりはまだまだです。

日本では、小児がんや遺伝子系、神経系の疾患では医療以外の支援があまり受けられず、在宅で家族が介護をしているのが現状です。子どもは、たとえ病気であっても成長を続けています。そんな子どもと家族に寄り添い楽しい時間を過ごすための在宅支援施設が、イギリスから世界へ広まっている「子どもホスピス」です。でも日本にはまだ大阪にしかありません。

子どもホスピスは看取りの施設ではありません。遊びや学びの機会、家族の時間を大切に、豊かな思い出を作る施設です。「普通の幸せ」を無償の愛で守っていく場です。

私は、娘の闘病生活の中から得た学びを子どもホスピスに生かしていけたら、娘がこの世に生まれた意味を形にできると思い活動を続けています。行政、教育機関、企業、団体、地域と協力し、制度に依拠しない形で、不安の中で生活している子どもと家族に寄り添っていきたいと考えています。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成30年度

ボランティア活動保険

全国200万人加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ			
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ		プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ			350円	510円
	天災タイプ※ (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL:03(3349)5137
 受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
 営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJNK17-16970 2018.1.9作成)

手に取りやすいものを目指して

「養育ブック改訂版」発行

「養育ブック改訂版」(以下、改訂版)は平成22年3月に発行された「子どもの安全と安心を護る養育ブック」を、今の子どもを取り巻く養育環境の変化や施設の規模・小グループ化が進んできていることに合わせて改訂したものです。加えて、里親にも活用していただけるよう工夫しました。

現在の主たる施設入所理由は虐待であり、子どもたちの多くは対人関係の不安や怖さを抱え、適切な人間関係を築くことが苦手です。施設の職員であれ里親であれ、子どもたちにとって良いと思うことを悩みながら考え、関わっていくのですが、なかなか思い通りにはならず、時として感情を刺激され不適切な関わりをしてしまうようになるともありません。

改訂版では、不適切な関わりに陥らないためにはどういう意識を持っておけばその助けになるか、具体的にできそうなことは何か、



養育ブック改訂版

そして養育者間で起こる心の動きなどについて取り上げています。

また、「相談しましょう」と言われ、それは分かっているけれど実際はなかなか相談しにくい子ども側の現実があることや、関係者にとって愛着関係が大切だと言われても一朝一夕には深まらない子どもとの関係の中で、愛着関係をどう捉えたいのか、という実際の悩みについてコラム形式で1つの考え方を示しました。



中にはイラストも

このような作成物は、最初に目を通したあとは、どこかに平積みされて埋もれてしまうことが多いので、改訂版は誰もが気軽に手にとって参考にしてもらいたいという意図がありました。悩みや思いを余白にいっぱい書き込んで、養育者間で話し合うツールになれば嬉しく思います。

(本会児童福祉施設協議会)

子どもの権利擁護研究会

ボランティアとより一層の関係性を築くために

平成30年度ボランティアコーディネーター・相談員研修開催

ボランティアコーディネーターには何が大切なのか、その気づきを深めることを目的に平成30年度ボランティアコーディネーター・相談員研修(スキルアップコース)が1月17日にながわ県民センターで開催され、県内の市区町村社、高齢、障害、児童福祉施設等でボランティアコーディネーター業務に携わる17名の参加がありました。



講演する唐木さん

講師には、(N)ボランティアコーディネーター協会代表理事の唐木理恵子さんが登壇。ボランティア活動は、やる気、世直し、無償性の要素があっても成り立つこと、ただし無償性は、交通費だけは支給されるなど、地域や活動によってさまざまであることを伝えました。また、ボランティア活動の特性や課題等について話がありました。阪神・淡路大震災での事例を紹介しながら、ボランティアが独りよがりとなる危険性があるなどの課題を唐木さんは指摘。ボランティアコーディネーターはこのような側面を理解し、ボランティアが支援した内容を受け止め、どう改善すればその活動が活きるのかを、共に考える必要があること、それを行う上で必要な役割などを紹介しました。その後、グループごとにボ



グループワークの様子

ランティアに対する課題や悩みを出し合うグループワークが行われました。ボランティアの高齢化といった課題や、受け入れ施設の職員とボランティアとの信頼関係を築くことが必要等の意見があり、課題解決に向けて議論と情報共有を行う参加者の姿から、さらなる活躍と有意義な研修であることが伺えました。

(企画調整・情報提供担当)

役員会の動き

- ◇理事会=1月22日(火)①神奈川県社会福祉センター(仮称)建設の進捗状況②神奈川県社会福祉会館管理規程(案)の制定③各種委員会委員の選任④苦情解決事業第三者委員の選任⑤平成30年度一般会計補正予算(案)⑥評議員会の招集

本会主催

第3回 福祉のしごとフェア

- ◇日時=2月22日(金)午前11時~午後4時
- ◇会場=横浜新都市ビル(横浜市西区高島2-18-1 そごう横浜店9階)
- ◇内容=①福祉のしごと就職支援ガイダンス②各法人・施設の担当者から仕事の内容や求人情報を直接聞ける、福祉施設等就職相談会
- ◇対象=福祉の仕事に就きたい方、福祉の仕事に興味がある方
- ◇申込=事前申込不要
- ◇問合せ先=かながわ福祉人材センター
☎045-312-4816 FAX 045-313-4590

第5回かながわ保育士・保育所支援センター 就職支援セミナー・就職相談会

- ◇日時=3月1日(金)午前11時~午後3時30分
- ◇会場=茅ヶ崎市民文化会館(茅ヶ崎市茅ヶ崎1-11-1)
- ◇申込=セミナー時の託児希望者のみ事前申込
- ◇問合せ先=かながわ保育士・保育所支援センター
☎045-320-0505 MAIL hoiku_jinzai@knsyk.jp

福祉のしごと 就活スタートダッシュセミナー

- ◇日時=3月2日(土)午後1時30分~午後4時
- ◇会場=かながわ県民センター12階第2会議室(横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2)
- ◇対象=2020年の春に就職予定の学生、専門学校・短大・大学等に在学中の学生
- ◇定員=30名

- ◇申込=☎ MAILにて申込。定員に達し次第締切
- ◇問合せ先=かながわ福祉人材センター
☎045-312-4816 FAX 045-313-4590
MAIL jinzai@knsyk.jp
- ◇同時開催=1階展示場にて福祉の仕事の理解促進・啓発イベント開催

会員・関係機関主催

(N)サードプレイス#当事者たちの声をきく~出会っちゃった2019~

- ◇日時=2月18日(月)午後6時~午後8時(開場午後5時30分)
- ◇会場=横浜市鶴見区社会福祉協議会研修室A(横浜市鶴見区鶴見中央4-37-37リオベルデ鶴声2階)
- ◇内容=「子どもの貧困」問題に焦点をあて、当事者である若者やそういった状況下にある子どもと関わる若者たちから「生の声」を聞きます
- ◇定員=20名
- ◇費用=500円
- ◇申込=☎ MAILにて申込。メールの場合、件名に「当事者たちの声をきく」と記入
- ◇問合せ先=(N)サードプレイス
☎080-9535-1594 MAIL thirdplace.tsurumi@gmail.com

川崎授産学園 福祉講演会

- ◇日時=3月9日(土)午後2時~午後4時(開場午後1時30分)
- ◇会場=川崎授産学園(川崎市麻生区細山1209)
- ◇内容=記者・神戸金史氏による講演「障害を持つ息子へ~息子よ。そのまま、いい。~」。ドキュメンタリー映像や質疑応答などを交えて開催
- ◇定員=150名
- ◇費用=無料
- ◇申込=3月8日(金)までに、☎ FAX MAIL 来所のいずれかにて申込。定員を上回る場合、抽選
- ◇問合せ先=川崎授産学園
☎044-954-5011 FAX 044-954-6463
MAIL info@seiwa-gakuen.jp

AA(アルコールクス・アノニマス) 第18回AA横浜地区の集い

- ◇テーマ=「生きる為の新しい道へ」

- ◇日時=3月17日(日)午前10時~午後3時45分(開場午前9時30分)
- ◇会場=横浜市健康福祉総合センター4階ホール(横浜市中区桜木町1-1)
- ◇内容=①AAメンバーによるアルコール依存症からの回復の体験談②医師の講演(玉澤彰英氏((医)誠心会神奈川病院院長))
- ◇対象=関心のある方、本人、家族、関係者など
- ◇費用=無料
- ◇申込=事前申込不要
- ◇主催=AA横浜地区の集い実行委員会
- ◇問合せ先=AA関東甲信越セントラルオフィス(日曜定休)
☎03-5957-3506 FAX 03-5957-3507
URL http://aa-kkse.net

寄附金品ありがとうございました

- 【一般寄附金】 広瀬公子
- 【交通遺児援護基金】(株)エスホケン、伊藤彩
- 【子ども福祉基金】(株)エスホケン
- 【ともしび基金】 J A横浜、J Aさがみ、J Aセレス川崎、かまぶろ温泉、ともしびショップファースト、横須賀県税事務所、妙深寺、J A湘南、脇隆志、横須賀土木事務所(合計18件 178,598円)
- 【寄附物品】(公財)報知社会福祉事業団、神奈川県定年問題研究会、東亜建設工業(株)横浜支店
- 【ライフサポート事業】
〈寄附物品〉(N)セカンドハーベスト・ジャパン、(公社)フードバンクかながわ
(いずれも順不同、敬称略)

2019年4月以降 会議室等の貸出が終了します

建物の老朽化に伴う耐震性の課題等を踏まえ、神奈川県社会福祉会館の会議室・研修室・講堂の一般貸出を終了します。

詳細は、本会ホームページをご参照ください。

ご理解の程、お願い申し上げます。

- ◇問合せ先=総務企画部

☎045-311-1422

URL http://www.knsyk.jp/

ボランティアでなければできない活動を

― 神奈川県精神保健ボランティア連絡協議会の活動に区切り

神奈川県精神保健ボランティア連絡協議会（以下、精ボ連）は、昭和59年から始まった本会の「精神衛生ボランティア講座」の修了生が中心となり、他のボランティアグループに呼びかけて発足し、今年度で30周年を迎えました。

当時の精神障害者を取り巻く環境は、福祉と保健、医療の連携が不十分な中で、社会的な支援体制が遅れていました。地域で生活する際に必要な情報を伝えることや障害者への偏見をなくし、当事者が抱える困難に共感し代弁していく市民の存在は欠かせないものであり、本会では、ボランティアや当事者活動支援を行ってきました。精ボ連は「ボランティアでなければやれない活動を」という理念のもと、専門家、当事者、家族だけの環境に、社会の当たり前風の吹き込み、当事者と市民の間を



グループのつながりについて話す根岸会長



精ボ連の今後を話し合ってきた、と天野さん



発足当時の様子を話す前田さん

つなぐ存在として活動を続けてきました。情報の収集と提供として「精ボ連通信」発行、啓発活動の講演会開催、関係団体と協力しイベント開催やネットワーク作りを柱に、治療や制度だけでは作り出せない、地域での生活を送るための支援者として活動してきました。このような活動を長く継続できたのは「地域で個々に活動をしながら、定期的に運営委員会を開き、各自の体験や活動の情報交換を通じて、グループを越えた緩やかなつながりを共有できたことが大きいですね」と、会長の根岸昭臣さん。精ボ連は、社会の変化や会員の高齢化などもあり、事務局長の天野由紀江さんを中心に、今後について協議を重ね、「精ボ連として一定の役割を果たした」と、活動30周年の節目に、講演会や記念誌の発行を行い、今年4月の総会で解

散することを決めました。

その背景について「当時と今では制度も変わり、地域に生活支援センターなどの相談機関や居場所ができて、当事者を取り巻く環境も整ってきました。何よりも当事者自身が声をあげる力をつけています」と、初代会長を務めた前田絢子さんは笑顔で語ります。

精ボ連の活動からは「地域作業所スペース杉田」の開設や「精神保健ボランティア全国のつどい」など、さまざまな活動が生まれ継続しています。精ボ連は解散しますが、これまで培ってきた人と人とのつながりや「当事者に寄り添う」という思いと共に、これからも地域での活動は、つながり広がり続けていきます。

（企画調整・情報提供担当）



30周年記念講演会の準備の様子

医療・福祉界の健全発展に資することが私たちの使命です。

医療・福祉業界の皆さまが抱える様々な問題の解決に向けて、経営コンサルティング・税務会計・会計監査などのサービスを総合的に提供できる体制を整備しております。

- ◆ 福祉経営・業経営コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関への人事コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関に特化した税務会計・代行
- ◆ 福祉施設の第三者評価事業 など

福祉施設の皆さまが地域のニーズに応え、時代や政策に適切に対応できるようご支援します。お気軽にご相談下さい。

～ おかげさまで 50 周年 ～



川原経営グループ
株式会社川原経営総合センター
税理士法人川原経営



〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー9階
TEL (03) 5422-7670 E-mail: info@kawahara-group.co.jp
URL : http://www.kawahara-group.co.jp/

セミナーを
開催します!!

どのように対応する? 介護職員の「働き方改革」

2019年3月1日(金) 14:00~17:00

【お問合せ先】人事コンサルティング部 03-5422-7548

「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています